

【研究構想図】

◆研究主題

主体的に学び自己調整できる児童の育成
—個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して—

◆目指す子ども像

- 1 自己の学びを調整しながら主体的に学ぶ児童
- 2 互いの考え方のよさを認め合いながら協働的に学ぶ児童
- 3 ICT 機器を利活用して自分の考えを分かりやすく説明できる児童

◆育成すべき資質・能力

課題の解決に向かう力	・課題の解決に向けて自分なりの見通しをもち、主体的に最後まで学習に取り組んだり、自己の学びを調整し改善したり次につなげたりする。
思考力・判断力・表現力	・友達の考えと自分の考えとを比べながら聞き、さらに考えを深める。 ・自分の考えを論理的にまとめ、相手や目的に応じて効果的に表現する。
よさに気付く力	・他者と協働する中で、互いの考え方や学習のよさを認め合い、自分の考えや表現を高める。

◆授業改善

個別最適な学び

- 見通しをもたせる学習計画表の活用
- 自己調整につながる振り返り
- 個に応じた手立て・自己決定の場の設定

往還

協働的な学び

- ノート指導
- ペアトーク
- 練り上げ時のファシリテートの手法

- 逆設計した「単元を貫く問い」・単元計画・本時の展開

ICTの効果的な活用

- ロイロノートの活用
- シンキングツールの活用
- 廿日市市学年別 ICT スキル表の活用
- ICT 機器を用いた振り返り、スタディ・ログの活用

課題

- ・ 開発したパフォーマンス課題や学習タイムで活用的な問題に取り組ませたが、学年末テストの「思考力・判断力・表現力」を見取る問題の目標値を下回っていた。(目標値 80%に対して 76%)
- ・ 児童アンケートでは、学び合いの場での表現についての項目で肯定的評価が低い。(目標値 80%に対して 72.7%)
- ・ 教職員アンケートでは、ファシリテートの項目で肯定的評価が低い。(目標値 80%に対して 57.9%) これは一昨年の数値よりも低下している。